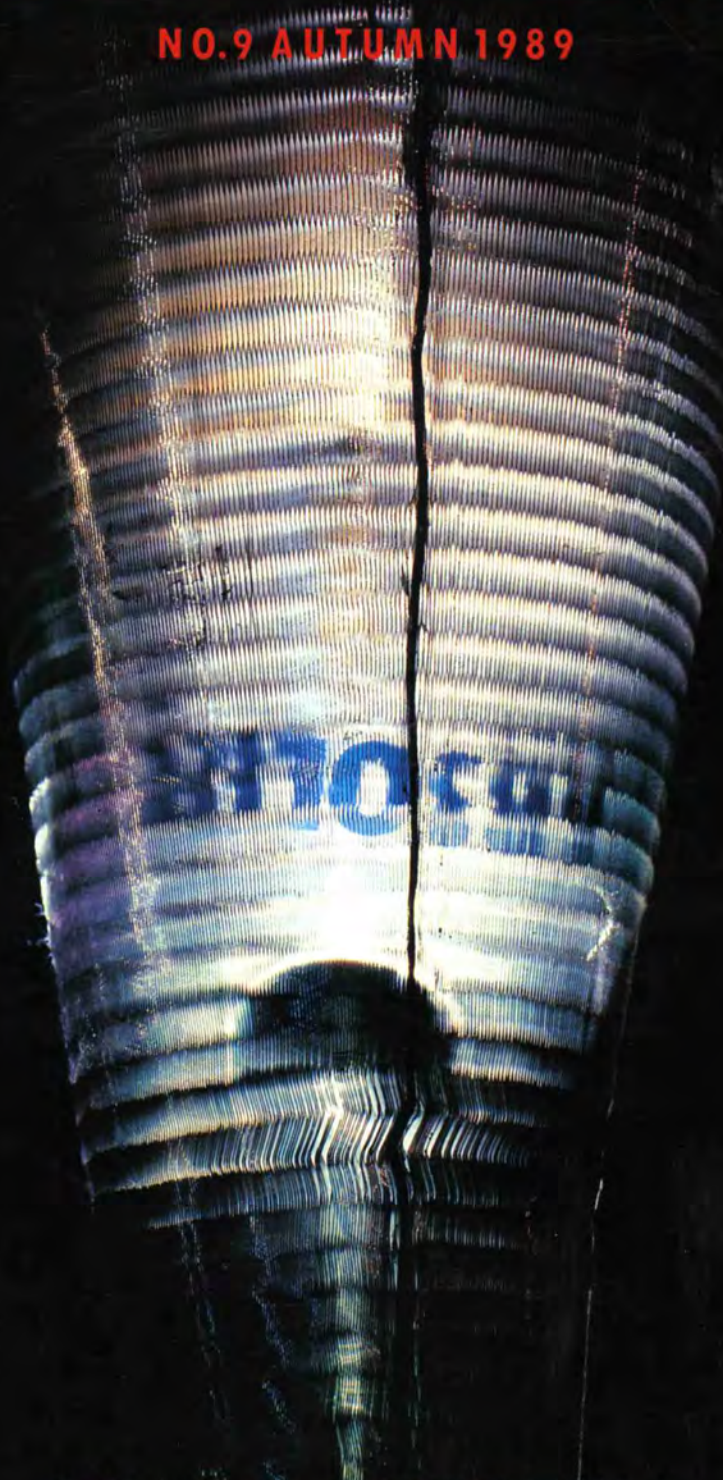


ウインド/世界のニューショップ&インテリアデザイン

W·I·N·D

World Interior Design

NO.9 AUTUMN 1989



特集/ハンガリーの過激浪漫派たち
CITY特集/リスボン——胎動する西の辺境
特集/スカンジナビアン ファニチュア フェア'89

● 整列と個性性の調和

人権宣言のための ポスター展の会場構成

Exhibition Display of 66 Posters for Human Rights-
ARTIS 89

会場構成 / CANAL, Daniel et Patrick Rubin,
Béatrice Jullien

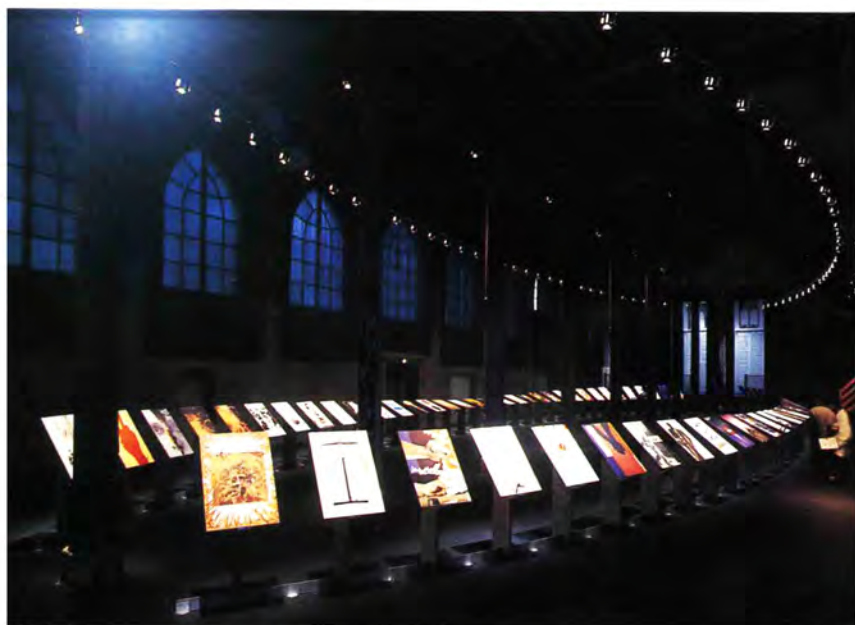
企画 / ARTIS 89 Grapus

今年の世界の日は7月14日の革命200年祭と、それに前後したアルシュ・サミットの行われたバリエーションに集中した観があるが、そんなお祭り騒ぎをよそに、いくつかの意義深い記念展示会も、静かな雰囲気の中で開催された。国際ポスター展もそのひとつ。これは「世界人権宣言」にちなんでフランスのポスター・グループ、グラフィュウスが企画・プロデュースしたもので、世界各国から66人のデザイナーが参加した。「人権」という一つのテーマに基づいてそれぞれがオリジナル作品を制作、一堂に展示された様はかなりの迫力であった。

日本からは、福田繁雄、亀倉雄策、田中一光ら13人がノミネートされた。フランス、アメリカ、西ドイツからは8人ずつであったから、現代の日本のグラフィック・デザイナーの層の厚さを物語るに十分であった。

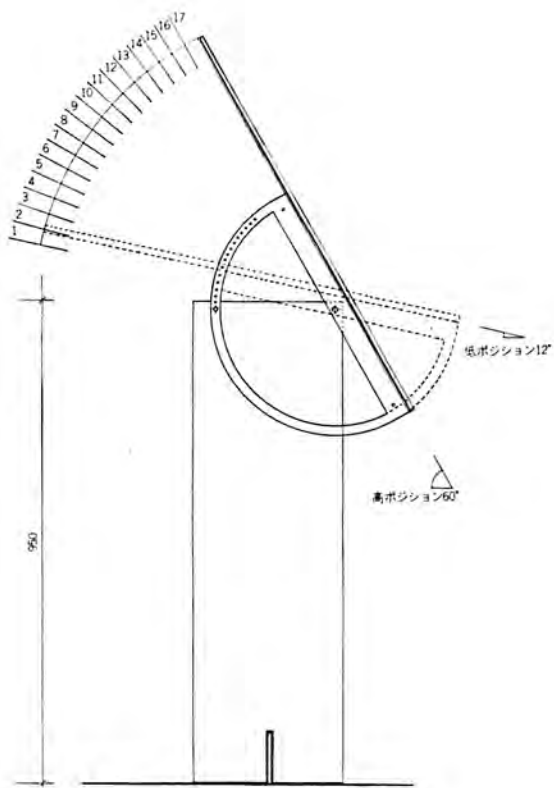
作品もさることながら、カナルが担当した会場構成も評判となった。場所はオデオンのパリ大学薬学部内にある山緒ある修道院で、ここは昨年から各種展示場にも使用されている。66点のポスターは、弓状のカーブを描いて並べられた2列のアルミプレート上にひとつひとつ独立して陳列され、天井からもポスターに別個にスポットライトが当てられるというもの。このプレートはストッパー付きで角度調節が可能となっており、端から順々に60度の範囲内で17段階に角度が変えられ、全体として波打つようなリズムミカルな表現であった。

人権宣言によって、人間の基本的な自由はその地平を獲得した。そうした貴重な歴史の重みを、この展示会は象徴しているようであった。





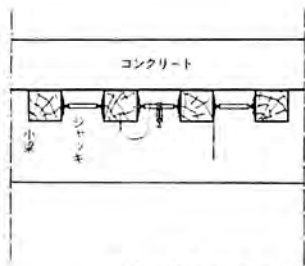
1. 展示装置の背面。仰角12度から60度の範囲で17段階に角度が変えられる。
アルミ製。
2. 66枚のポスターそれぞれにスポットライトが別個に当てられている。
3. 会場奥からエントランス方向を見る。



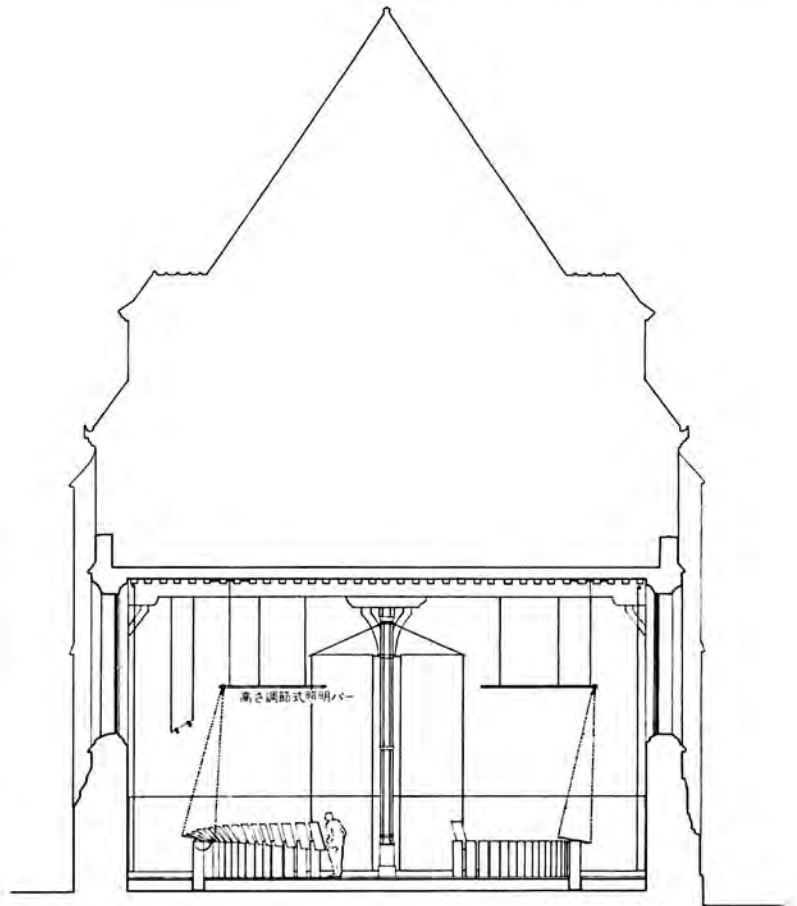
展示台 DETAIL 1:15



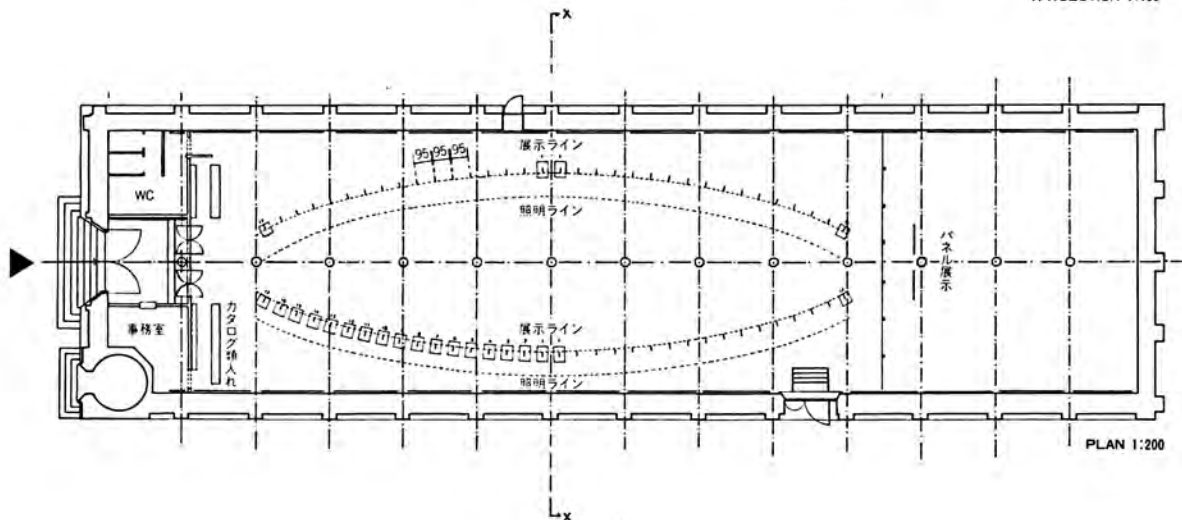
仰角12度から60度の範囲で順次17段階に角度を変えた展示



照明巻き上げ部接合部ディテール 1:20



X-XSECTION 1:100



PLAN 1:200